

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	C21157
課題名	FFPE 標本を対象としたプロテオーム解析による大腸癌肝転移切除後再発の予後予測バイオマーカーの探索
研究期間	実施許可日 ～ 2028 年 3 月 31 日
研究の対象	2013 年 4 月～2025 年 3 月に当院で大腸癌肝転移の診断で肝臓の手術を受けられた方
利用する試料・情報の種類	<p>■診療情報（詳細：年齢、性別、治療内容・経過、病理診断結果、血液検査結果、画像検査結果、副作用等の発生状況、カルテ番号 等）</p> <p>■手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：肝臓）</p> <p><input type="checkbox"/>血液</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p>
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
外部への試料・情報提供	<p><input type="checkbox"/>自施設のみで利用</p> <p>■多施設共同研究グループ内（提供先：国立がん研究センター研究所、熊本大学）（提供方法：郵送）</p> <p><input type="checkbox"/>その他（提供先： ）（提供方法： ）</p> <p>■第三者への提供予定日（提供開始日 2023 年 5 月以降）</p>
研究組織	<p>○研究代表機関</p> <p>国立大学法人 旭川医科大学</p> <p>外科学講座 肝胆膵・移植外科学分野 教授 横尾 英樹</p> <p>外科学講座 肝胆膵・移植外科学分野 講師 今井 浩二</p> <p>外科学講座 肝胆膵・移植外科学分野 助教 高橋 裕之</p> <p>旭川医科大学病院 病理部 教授 谷野 美智枝</p> <p>○共同研究機関</p> <p>国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野 分野長 近藤 格</p> <p>国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野 任意研修生 安達 雄輝</p> <p>国立大学法人 熊本大学</p> <p>大学院生命科学研究部 薬学系 微生物薬学分野 教授 大槻 純男</p>

<p>研究の意義、目的</p>	<p>肝転移をきたした大腸癌は、手術で切除することができれば、長期生存を期待できる一方で、手術後の高い再発率が問題となっています。再発リスクの高い癌や化学療法がよく効く癌の特徴を明らかにすることが、治療計画を立案する上で重要です。</p> <p>手術によって切除された腫瘍組織は、ホルマリンで処理されパラフィンという特殊な素材の中に埋めることで長期保存が可能になっています。これらの標本は病理診断に用いることが主な目的でしたが、技術革新に伴って、この標本から癌の中に含まれるタンパク質や遺伝子の情報を得ることが近年可能になりました。この新しい手法を使って、肝臓に転移した大腸癌の特徴を調べ、転移のメカニズムを解明したり、新たな治療法を見つけることが、この研究の目的です。</p>
<p>研究の方法</p>	<p>保存されている標本から、特別な薬剤を使用し、様々な処理を加えることで、タンパク質を抽出します。ここで得られた情報と各患者さんの臨床情報や病理診断の結果を統合し、解析を行うことで、どのようなタンパク質が癌の転移や再発に関係しているのかを調べます。得られた仮説に基づいて、より詳細な検証実験を行います。それらの研究結果を、大腸癌が肝臓に転移する仕組みの解明や再発リスクの高い癌の同定、新たな治療法の開発に繋がります。</p>
<p>その他</p>	<p>特記なし。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：  旭川医科大学 外科学講座 肝胆膵・移植外科  研究責任者：横尾 英樹  所在地：旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号  電 話：016 6-68-2503</p> <p>研究代表者：  旭川医科大学 外科学講座 肝胆膵・移植外科 横尾 英樹</p>